

第4 本時の指導計画例と評価及び改善の考え方

<事例1> 第3学年 学級活動「(1) 学級や学校における生活づくりへの参画」
 内容 ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

第3学年〇組 学級活動(1) 指導案

令和〇〇年10月24日(木) 第〇校時

指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 議題 「室内オリンピックをしよう」(ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決)

2 議題について

- (1) 児童の実態 (略: 児童の学級生活や学級活動における実態について記述する。)
- (2) 議題選定の理由 (略: 選定された背景や教師の指導観などについて記述する。)

3 第3学年及び第4学年の評価規準 (略: P310参照。1時間ごとに評価規準を作成するのではなく、学校で定めた低・中・高学年の評価規準を記述する。)

4 事前の活動

提案内容によって、議題化・先生にお願い・係へ・その他などで対応していくことで、多くの提案を生かしていく。

日時 活動の場	児童の活動 ○計画委員会 ●全員の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】(評価方法)
10月18日(金) 業間休み 帰りの会	○議題ポストを確認し、選定する。 <提案された議題> ①「ドッジボール大会がしたい」 ②「室内オリンピックがしたい」 ●議題を決定する。 全員で話し合う価値(必要性)があることを、全員が納得できるように工夫して提示する。	・議題選びの視点を念頭に置いて選定することを指導する。 ・計画委員会の提案のもと、学級全員で決定する。 P306 指導計画作成の配慮事項(6)	◎学級生活をよりよくするために、進んで議題を考えたり、選んだりしようとしている。【態】(提案カード、観察)
10月21日(月) 昼休み 帰りの会	○活動計画を作成する。 (提案理由、めあて、話し合うこと、決まっていること(条件)、役割分担等) ○学級活動コーナーに掲示する。 事前に案を掲示することで、参加意欲の向上へつなげる。 ○話し合うことを全員に知らせる。 ●学級会ノートに自分の考えを記入する。 学級会ノートに励ましの言葉等を記入し、話し合いの意欲を高める工夫も考えられる。	・提案者の思いや願いが学級全体の共同の問題になるように提案理由を深めるようにする。 ・日時や場所などの条件を教師が設定する。 ・前回の反省を生かそうとする視点をもてるようにする。 ・話し合うことや決まっていること(条件)を共通理解できるようにする。 ・提案理由に沿った意見が書けるように助言する。	◎計画委員会の役割、室内オリンピックに向けた話し合いの進行の仕方等を理解している。 【知・技】(活動計画、観察) 前回の学級活動の掲示物や学級会ノートから、今回生かせるような課題を見付ける。
10月22日(火) 昼休み	○全員の学級会ノートに目を通し、書かれた意見を整理する。 ○必要に応じて短冊を記入したり図を用意したりする。	・話し合いの見通しが持てるようにする。必要に応じて短冊に記入する。	出た意見を事前に短冊に記入し、分類整理しておくこと、思考の整理や流れの把握、時間短縮につながりやすい。

5 展開

(1) 本時のねらい

よりよい学級生活をつくるため、友達の思いに寄り添いながら、互いのよさや努力を認め合える室内オリンピックの計画を考えることができるようにする。

(2) 児童の活動計画

きだい	3-1室内オリンピックをしよう		
ていあんりゆう	〇〇さんよろしくねの会や秋まつりを通して男女関係なくおたがいのかわりを深めてきました。そこで、3-1室内オリンピックを自分たちで考えて自分たちで開きすることで、今までよりもきょうかできて、さらにおたがいのがんばりやよさを見つげられたり、かわりを深めたりすることができると思っていました。		
めあて	・おたがいのがんばりやよさを見つげられるようなオリンピックきょうぎの内容を決めよう。 ・おたがいの意見の理由を考えながら発表しよう。		
司会グループ	司会	黒板記録	ノート記録
きまっていること	・やる日…11月12日(火)5時間目 ・場所…教室 ・やること…こんきょうぎ(1つか2つ) だん体きょうぎ(全員でやる。だん体は決めておく。)		

話し合いのじゅんばん	気をつけること	よういするもの
1 はじめの言葉	・大きな声ではっきりと言う。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級会ボード ・学級会ノート ・学級会グッズ (話し合いの中で、例示するのに使いそうな道具で、用意できる物など)
2 計画グループのしょうかい	・一人ずつ自分のやくわり、名前、めあてをはっきりしようかいする。	
3 学級目標(もしくはクラスの歌)	・黒板記録が指しめしめしながら伝える。	
4 きだいのかくにん	・大きい声ではっきりと言う。	
5 ていあんりゆうのかくにん	・みんなに分かるように、ていあんりゆうに読んでもせつめいする。	
6 決まっていること	・時間、場所、内容、気をつけることなどをかくにんする。	
7 話し合いのめあて	・先生の話	
8 先生の話し合い	・話し合うこと①(10分) 「オリジナルきょうぎは何をするか。」	
9 話し合うこと②(15分)	・すでに出版されているものを読み上げる。 ・ルールもかくにんする。 ・ていあん理由や話し合いのめあて、決まっていることなどを理由に話し合うようにする。 ・出ているあんをなまかま分けしながら進める。	
10 話し合うこと③(5分)	・「友だちのがんばりをみとめるためにどんなふうにするか。」	
11 話し合うこと④(5分)	・「役割分担はどうするか。」	
12 きまったこと	・きまったことをはっきり発表する。	
13 ふりかえり	・自分と友だちのがんばったことを見つめる。	
14 先生の話し		
15 おわりの言葉	・大きな声ではっきりと言う。	

(3) 教師の指導計画

活動の計画	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】(評価方法)
1 はじめの言葉 2 計画委員の紹介 3 議題の確認 4 提案理由の確認 5 決まっていることの確認 6 話し合いのめあての確認 7 先生の話 8 話し合い 話し合うこと① 「オリジナル競技は 何をするか」 話し合うこと② 「友達のがんばりを認めるためにどんな工夫をするか」 話し合うこと③ 「役割分担はどうするか」 9 決まったことの確認 10 振り返り 11 先生の話 12 おわりの言葉	<ul style="list-style-type: none"> 自分のめあてが言えるように、事前に指導する。 提案者の思いや願い、学級全員の問題であることを確認する。 日時や場所については、あらかじめ教師の方で決めておく。 話し合うこと①は「くらべ合う」段階から進められるよう、事前に短冊を背面黒板等に掲示しておき、出されている意見を全員で共通理解できるようにしておく。(はじめに追加の案を確認する。) 話し合いが混乱したとき、ねらいや提案理由などから大きく離れた場合、話し合いを深めるときは話し合いを止めて指導助言をする。 児童に任せることができない条件を逸脱しそうな場合は、必要に応じて助言する。 自分の意見に固執せず、納得した上で考えを変えるなど、折り合いをつけることも必要であることについて助言する。 よかった点や課題について自己評価し、友達のよかった点などについても相互評価できるように助言する。 終末の助言では、①合意形成したことへの価値付けや個人や集団への称賛、②今後の課題、③計画委員へのねぎらい、④今後の見通しや実践に向けての意欲付け等について簡潔に述べ、特に前回の話し合いと比べての変容について称賛する。 時間があれば、提案者に今日の話し合いの感想を述べる場を設ける。 	<p>◎目指す児童の姿 【観点】(評価方法)</p> <p>【短冊の活用】 話し合いで似たような意見が重なったり、たくさんの意見が出されたりした時に、分類・整理することで比べやすくなる。</p> <p>決定されなかった意見の短冊も、振り返りで活用することができるため、板書に残しておくようにする。</p> <p>◎理由を明確にして考えを伝えたり、自分と異なる意見も受け入れたりしながら、集団としての目標や活動内容について合意形成を図っている。</p> <p>【思・判・表】 (観察・学級会ノート)</p> <p>◎理由を明確にして考えを伝えたり、自分と異なる意見も受け入れたりしながら、集団としての目標や活動内容について合意形成を図っている。</p> <p>【その場ですぐに指導助言を行う場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級の児童を傷付けることが予想される内容に関すること 実施の時間や校内の決まりや施設利用に関すること 金銭に関すること 健康や安全を損なうおそれがあること

6 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】(評価方法)
【10月24日(木) 帰りの会】 【10月25日(金) ~11月5日(火) 休み時間】 【11月5日(水) ○校時】	<ul style="list-style-type: none"> 決まったことを学級活動コーナーに掲示する。 役割分担が決まっていなければ係の役割分担をする。 係ごとに準備をする。帰りの会などで経過報告する。 「室内オリンピック」 会終了後、感想を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 決まったことを分かりやすく書くよう助言する。 係は必ず複数名で担当し、協力して活動できるようにする。活動の途中経過を報告し合い、活動意欲を継続できるようにする。 自分の態度を振り返るとともに、友達のよいところについても認められるように助言する。 よかった点や改善点などを話し合うようにする。個人を責めないよう助言する。 話し合いや実践のよかった点、課題点等をまとめるよう助言する。 	<p>◎室内オリンピックの目的を考え、めあてを意識しながら友達と協力して取り組んでいる。【思・判・表】(感想、振り返りシート、観察)</p> <p>◎室内オリンピックを振り返り、自分のがんばりや友達のがんばりに気付いたり次の活動に生かそうとしたりしている。【態】(振り返りシート、観察)</p>
【11月6日(木) 朝の会】	<ul style="list-style-type: none"> 役割分担の係ごとに振り返りをする。 		

振り返りは、事前・本時・事後の一連の学習過程を通して行うようにする。

学級会ノート (話し合いの振り返り)

◎○△で、ひょうかしよう。	
ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> 友だちの意見のよいところを考えながら聞けましたか。◎ ○ △ 自分の意見を進んで発表できましたか。◎ ○ △ 決まったことや自分のやりわりが分かりましたか。◎ ○ △ 話し合いの中で、いいねさんを見つけましたか。◎ ○ △
かんそう	ていあん理由をもちに考えることができました。△△と□□の意見が決まらなくてこらんしたけど、○○さんの意見で2つの意見のいいところを合わせるとみんななっとくできて、この考え方はすこいと思いました。次は私も○○さんのような意見を発表したいです。
かつやくしていた人 (いいねさん)	【○○○○】さんです。わけは、友だちの意見のいいところを合わせて、みんながなっとくできる新しい考えを発表していたからです。

【思・判・表】
提案理由に沿って考えたり、多様な意見のよさを生かして合意形成を図ったりしていることから、十分満足できる活動の状況であると判断できる。

話し合いの中で、友達のよいところを認め合えるようにする。

人柄ではなく、提案理由に沿った考え方や折り合いのつけ方も発見できるようにする。

振り返りカード (実践の振り返り)

具体的な役割のめあてを記入することで、役割を意識できるようにする。

【態】
自分や友達のよさががんばりに気付き、課題を次の活動に生かそうとしていることから十分満足できる活動の状況であると判断できる。

多様な場面で友達を認め合える視点をもたせるようにする。

議題 【室内オリンピックをしよう】 ふりかえりシート	
3年O組 名前(○○○○)	
自分のやくわり	せい火りレーで使うせい火を作る。
自分のやくわりでの自分のめあて	友だちと、ぎょうカしてみんなが持ちやすいせい火を作る。
★活動をふりかえりしよう。	
	ふりかえり内よう
本番をいしきて、声をかけ合いながらじゅんびできましたか。	◎
自分のやくわりを、りかしながら活動できましたか。	◎
友達ときよりよくして、楽しく活動することができましたか。	◎
自分や友だちのよさがみつかりましたか。	◎
クラスの一員であるきもちを高まりましたか。	◎
★かんそうをかきましよう	
友だちときよりよくして、持ちやすくてきれいなせい火を作ることができました。オリンピックでは、全員でせい火りレーができ、オリンピックがもり上がりました。うれしかったです。でも作るのに時間が多くかかってしまったので、次に活動する時は、もっと友達と声をかけ合いじゅんびをしていきたいです。	
★じゅんびや本番でがんばっていた友だちを書こう。	
じゅんび	本番
【○○○○】さん (理由) せい火を作るときに、いっしょに持ちやすいふうを考えてくれて、なっとくのせい火が作れたからです。	【○○○○】さん (理由) ペアの友だちと走るはやくさを合わせてえがおでせい火りレーを行っていたからです。

特別活動

＜事例2＞ 第2学年 学級活動「(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」
 内容 ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

第2学年〇組 学級活動(2) 指導案

令和〇年11月7日(木) 第〇校時

指導者 T1教諭 ○○ ○○

T2養護教諭 ○○ ○○

1 題材 「じょうずな手洗い」(ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成)

2 題材について

- (1) 児童の実態 (略：児童の学級生活や題材に関わる児童の実態について記述する。)
- (2) 題材設定の理由 (略：本題材を取り上げる必要性など教師の題材観、指導観などについて記述する。)

3 第1学年及び第2学年の評価規準 (略：P310参照。1時間ごとに評価規準を作成するのではなく、学校で定めた低・中・高学年の評価規準を記述する。)

4 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】(評価方法)
<ul style="list-style-type: none"> ・題材を知る。 ・アンケートに答える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題意識を高められるよう、事前に予告しておく。 ・アンケートを実施し、学級の実態を把握する。 	◎アンケートを通して、これまでの手洗いの仕方を振り返ろうとしている。 【態】(アンケート)

5 本時のねらい

これまでの手洗いの習慣を振り返り、健康管理のために正しい手洗いを実践していこうとする態度を育てる。

6 展開

段階	児童の活動	指導上の留意点		教材・資料	◎目指す児童の姿 (観点)【評価方法】
		T1(学級担任)	T2(養護教諭)		
導入 15分 (つかむ)	1 今までの手洗いの仕方について振り返る。 2 ブラックライトで汚れが残っているか確認する。 3 洗い残しのあったところをワークシートに記入する	<ul style="list-style-type: none"> ・事前のアンケートの結果を知らせ、手洗いについての意識を高められるようにする。 ・児童の手に予め蛍光ローションを塗っておく。 ・自分では洗っているつもりでも、実際には汚れが残っていることを実感できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段、自分たちが行っている手洗いの映像を見て、今の手洗いの仕方について振り返ることができるようにする。 ・汚れが残っていると、青く光ることを知らせる。 ・手首や指と指の間、爪に汚れが残りやすことを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート集計表 ・児童が手洗いをしている動画 ・電子黒板 ・ブラックライト ・蛍光ローション ・汚れが残った手の写真 ・ワークシート 	T1とT2の役割を明確にする。特にT2の役割や指導内容については事前に打合せを行い、学年段階や発達の段階に即して指導内容の重点化を図り、指導の効果が十分高められるようにする。
		じょうずに手をあらおう	ねらいにせまる姿を児童に分かりやすく提示する。		
展開 20分 (やめる)	4 洗い残しがあるかどうか話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・手に汚れが付着したままだと、病気になる恐れがあること等に気付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウイルスやばい菌がどこに付着しやすいか、また、体への悪影響について写真や図を用いて説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病気にかかる様子を示した体の資料 	

(見つける)	5 正しい手の洗い方を考える。	・ワークシートで、汚れが残りやすいところを確認する。	・手順表に従い、手の洗い方の手本を示す。	・手洗いの手順表	◎正しい手の洗い方や衛生面で気を付けることを理解している。【知・技】(観察・発言)
	6 手洗いを実践する。	・洗い終わった児童には、再度ブラックライトで確認するよう指示をする。	・手首や指と指の間、爪などを丁寧に洗うように声をかける。		
終末10分(決める)	7 自分のめあてや実践方法を決め、発表する。	・自分の課題に合った具体的なめあてや実践方法を決めて学習カードに書くようにする。 ・自分のめあてを隣同士で発表し合い、実践に意欲をもたせる。 ・1週間実践し、自己評価できるようにする。	・机間指導を行い、必要に応じて、具体性のあるめあてや実践方法が設定できるように助言を行う。	・学習カード	◎自分の課題に合った具体的なめあてや実践方法を決めている。 【思・判・表】(学習カード、観察・発言)

P306 指導計画作成の留意事項(1)

P306 指導計画作成の留意事項(5)

7 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿(観点)【評価方法】
<ul style="list-style-type: none"> ・隣同士で取り組み状況を発表し合い、称賛したり、励まし合ったりする。 ・達成できたことやできなかったことなどを振り返り、反省を生かして継続的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・帰りの会などを利用して、隣同士で取組を確認し合う場を設け、お互いの頑張り認め励まし合いながら、実践の継続化を図る。 	◎具体的なめあてや実践方法に、進んで取り組もうとしている。【態】(学習カード・観察)

目標達成に向けて最後まで粘り強く取り組めるよう、週の途中で友達と報告し合う機会を設定する工夫も考えられる。

学習カード

じょうずな手あらい がんばりカード

2年〇組 名前 ○〇 ○〇

1 今日のじゅぎょうで わかったこと

ゆびとゆびのあいだやつめ、手首によこれがのこりやすいので、せっけんをよくあわだてて、ていねいにあらう。

2 手あらい名人になるためにがんばること

(いつ) そとからかえってきたら

(どんなふうに) 石けんをよくあわだてて、

(なにをする) ゆびのあいだや手首もていねいにあらう。

3 1週間の手あらいをふりかえろう (できた日に色をぬろう。)

11/8	11/11	11/12	11/13	11/15	11/18	11/19

4 1週間の実践をふりかえろう

石けんをつかわないときもあったけど、ゆびのあいだも

しっかりあらえて、よかったです。これからもつづきたいです。

5 おうちのひとから

家でも、ていねいにあらえたね。これからもがんばってね。

6 せんせいから

めあてにおけて、すこしずつ、ていねいにあらえるようになったね。これからも、手あらい名人でがんばろうね。

【知・技】

石鹸を使用して汚れを落とすこと、手指の汚れが残る場所を意識して洗うことについて理解している様子が見られるため、十分満足できる活動の状況であると判断できる。

【思・判・表】

本時で学習したことをもとに、自己の課題を見つめ、具体的なめあてを立てられたことから、十分満足できる活動の状況であると判断できる。

児童の自己評価や相互評価は、学習活動のためそれをそのまま学習評価としない。教師がしっかりと見取り、評価する。

家庭でも定着するよう、コメントを書いてもらうなどして連携を図ることも考えられる。

児童の取組を励ましたり、価値付けたりする。

特別活動

<事例3> 第6学年 学級活動「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」
内容 ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成

第6学年〇組 学級活動(3) 指導案

令和〇〇年1月17日(金) 第〇校時
 指導者 教諭 〇〇 〇〇

- 1 題材 「もうすぐ中学生」(ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の育成)
- 2 題材について
 - (1) 児童の実態 (略：児童の学級生活や題材に関わる実態について記述する。)
 - (2) 題材設定の理由 (略：本題材を取り上げる必要性など教師の題材観、指導観などについて記述する。)
- 3 第5学年及び第6学年の評価規準 (略：P311参照。1時間ごとに評価規準を作成するのではなく、学校で定めた低・中・高学年の評価規準を記述する。)
- 4 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】(評価方法)
・アンケートに取り組み、中学校に対する期待や不安、がんばりたいことについて考える。	・アンケートを通して、中学校生活について「今の自分」がどのように考えているかを見つめられるようにする。	◎今の自分の姿を振り返り、なりたい中学生について考えている。 【思・判・表】(アンケート)

5 本時のねらい

中学校生活の見通しをもち、今から努力していくことを決め、自分なりのめあてを立てて実践できるようにする。

6 展開

	児童の活動	指導上の留意点	資料	◎目指す児童の姿 【観点】(評価方法)
導入 5分(つかむ)	1 中学校生活に関する意識調査の結果を知り、本時の課題を捉える。 ①楽しみなこと ②不安なこと ③中学校で頑張りたいこと 2 これまでの小学校生活を振り返り、どんな中学生になりたいのか話し合い、イメージをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">もうすぐ中学生</div>	・中学校に関する意識調査の結果から友達も自分と同じように様々な楽しみなことや不安なことがあることに気付くことができるようにし、問題意識を高める。 ・学級活動ノートや学校行事ファイル等を活用し、自分の得意なことや学校生活で努力してきたことを振り返り、どんな中学生になりたいのか考えられるようにする。	・アンケート結果のまとめ <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">P306 指導計画作成の留意事項(3)</div> ・学級活動ノート、学校行事ファイル、委員会ノート等	
展開 30分(さぐる)	3 中学校生活の魅力について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">P306 指導計画作成の留意事項(4)</div> 4 中学校生活の魅力を踏まえ、自分がどんな中学生になりたいか考える。	・中学生のインタビュー動画を視聴することで、中学校生活の魅力がたくさんあることに気付けるようにする。 ・中学校の教師から不安や疑問点についての答えを聞くことで、中学校生活への心構えをもてるようにする。	・インタビュー動画 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">インタビュー動画を事前に視聴したり、中学生をゲストティーチャーとして招き、直接インタビューしたりする手立ても考えられる。</div> ・学習カード ・短冊	

(見つける)	5 なりたい中学生に向けて、今から必要なことは何か話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめに一つの例について学級全体で考えることで「なりたい中学生」に向けて、今から必要なことをより多く記述できるようにする。 ・個人思考したことを学級全体で伝え合い、解決方法を共有できるようにする。その際、短冊等を活用し、内容ごとに分類・整理することも考えられる。 	イメージマップ等を用いて、児童の思考を活性化したり、グループで解決方法を考えたりする方法も考えられる。 ・学習カード ・短冊
終末10分(決める)	6 出された解決方法をもとに自分のめあてを意思決定し発表する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">P306 指導計画作成の留意事項(1)</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標設定が難しい児童には板書された意見を参考にしようと言し、意思決定できるようにする。 ・実現可能になっているか、具体的にになっているか、グループで互いの目標を見合う時間を設けるようにする。 	・学習カード ◎なりたい中学生に向けて、自分のめあてを意思決定している。 【思・判・表】 (観察・学習カード)

7 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿【観点】(評価方法)
<ul style="list-style-type: none"> ・自分のめあてを掲示し、1ヶ月間、卒業チャレンジとして取り組む。 ・今までの取組を振り返り、目標を修正して1ヶ月間取り組む。 ・2ヶ月間、実践してきたことを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・可視化し、常に目標を意識して取り組めるようにする ・週に1回、取組を評価する時間を設けることで自分の取組を客観視できるようにする。 ・成果と課題に気付けるようにし、さらに自分に合った目標設定ができるようにする。 ・今まで目標に向かって努力してきたことを称賛し、これからも目標をもってよりよい生活をしていこうとする意欲を高める。 	◎なりたい中学生に向けて、自分のめあてに粘り強く取り組もうとしている。 【態】 (観察、学習カード)

児童が意思決定した内容に自主的かつ粘り強く取り組んでいたかどうか、行動やワークシートから評価し、その後の指導に生かすとともに、次年度の指導計画の改善に反映させていくようにする。

学習カード

～もうすぐ中学生～
6年組 名前

1 私が考える「なりたい中学生」

学習と部活が両立できる中学生
(定期テスト20番以内・サッカー部レギュラー)

2 なりたい中学生に向けて必要なこと

<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習ノートに取り組む(好きなことや苦手なこと) ・小学校算数の復習をする ・自主学習の時間を決める ・自主学習を30分以上やる 	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカーの自主練習を行う ・その時間の練習のめあてを決める ・サッカー日記をつける ・上手い人のプレーをよく見る ・学習とサッカーのバランス考える
---	--

3 個人目標(卒業チャレンジ)を決めよう

「自主学習ノート」と「サッカーの自主練習」にバランスよく取り組む

⇒「自主学習ノート」(月・水・金)と「サッカーの自主練習」(火・木・土・日)に
バランスよく、計画的に取り組む

4 1週間ごとの振り返り

①1月24日()	②1月31日()	③2月7日()	④2月14日()
自主学習とサッカーの練習両方を行える日が多かったので続けていきたい。	サッカーの練習だけになってしまふ日が多かった。来週は自主学習をやりたい。	自主学習を行える日も合ったが、やはりサッカーの練習にかたよってしまった。	内容は工夫できるようになったが、両方を一日にやるのは難しいと感じた。
⑤2月21日()	⑥2月28日()	⑦3月7日()	⑧3月14日()
曜日を決めて取り組むことで、それぞれ30分以上集中してできた。	今週も決めた曜日で行えた。自主学習では小学校で習った算数を復習していききたい。	自主学習では1～5年生までの総復習ができた。サッカーでも工夫していききたい。	サッカー日記を書くことで自分に必要なことを意識できた。自主学習も工夫できた。

5 目標に取り組んだことの振り返りとこれからの目標

今までの自分は、サッカーならサッカーだけ、学習(算数)なら学習(算数)だけにしか集中することができなかった。しかし、「月・水・金」は「自主学習ノート」、「火・木・土・日」は「サッカーの自主練習」と計画を立てることで上手く続けることができた。また、続けることで自主学習では、ただの計算練習ではなく、文章題に挑戦したり、小学校の総復習をしたり、また、サッカーでも練習日記をつけるなど、工夫をすることができた。

先生から

話し合いの時から学習と部活の両立を目指し、解決方法を考えていましたね。一回取り組んでみたことを振り返り、新たな目標を設定し、見事達成できてすばらしいです。

【思・判・表】
「学習と部活が両立できる中学生」という「なりたい自分」になるために必要なことを多角的に考え、話し合いに参加することができていた状況や、学習と部活を両立するための自分に合った具体的なめあてを意思決定していると考えられる点から、十分満足できる活動の状況であると判断できる。

1か月間取り組み、できたこととできなかったことを振り返り、さらに自分に合った個人目標になるように修正できるようにする。

文章記述の形式で振り返ることで自らの取組の成果と課題を客観視できるようにする。また、1週間に1回、定期的に振り返る時間を設けることで、継続的な取組となるようにする。

【態】
「どうしてもどちらか一方だけに集中してしまう」という自分自身の姿を客観視し、その解決方法を考えたり、「月・水・金は自主学習ノート」「火・木・土・日はサッカーの自主練習」という修正後の目標に粘り強く取り組んでいたりする姿から十分満足できる活動の状況であると判断できる。

児童の取組を励まし、価値付けることで、これからも目標をもってよりよい生活をしていこうとする意欲を高める。

特別活動

第5 特別活動の評価と指導要録

1 特別活動における評価

特別活動の評価は、特別活動が人間形成に関わる多様な資質や能力の育成を目標としていることから、児童のよさや可能性、進歩の状況などを積極的に取り上げることが基本として進めることとなる。評価した児童の活動状況については、通信簿や面談などを通して保護者に積極的に伝えたり、理解を得たりして、よりよい成長を目指して共に指導に当たるようにするなど「指導に生かす評価」となるよう配慮することが大切である。

指導要録における特別活動の記録欄については、前回の改善同様に特別活動全体に係る評価の観点を各学校が設定し、内容ごとに評価規準を作成することが示された。これは、各学校で「特別活動でどんな児童を育成するのか」について考え、全教職員の共通理解のもと、評価の観点について検討し、ねらいを明確にした指導が展開されることを意図している。これらのことを踏まえ、以下の点に留意して特別活動の評価を進めることが大切である。

- 特別活動の目標や例示された評価の観点を参考に、各学校で評価の観点を定め、指導要録にも記載する。
- 各学校において定めた評価の観点に沿って評価規準を設定し、活動の状況を正しく見取る手だてや評価体制を構築する。
- 児童のよさや進歩の状況などをどのように捉えるかなどについて共通理解を図るとともに、教師相互の話合いや情報交換を積極的に行い、確実に資質・能力が育成されるよう指導の改善に生かしていく。

2 評価のための資料の収集

評価カード等の資料は、蓄積していくことで、児童自身がこれまでの活動を振り返りながら新たな学習や生活への意欲につながったり、将来の生き方を考えたりするために有効であると考えられる。その際、児童自身の自己評価や集団の相互評価による評価などについては、集団活動や自らの実践のよさを知り、自信を深め、課題を見だし、それらを自らの実践の向上に生かすなど、児童の活動意欲を喚起する評価にするよう一層工夫することが求められる。なお、児童の自己評価や相互評価は学習活動であり、それをそのまま学習評価とすることは適切ではないが、学習評価の参考資料として適切に活用することはできる。

また、特別活動においては、学級担任以外の教師や複数の教師で指導に当たる場合も多いことから、個々の児童の活動状況について学級担任と担当する教師との間で情報交換をするとともに、評価に必要な資料が学級担任の手元に届き、活用されるようにすることが大切である。

3 評価補助簿の活用と指導要録の評価欄における記入について

活動の積み重ねによって、年間を通して児童を育てようとする特別活動においては、全ての評価の観点について一連の学習過程の中で評価できるようにしたり、顕著な事項は補助簿等を活用して記録したりしておき、評価規準に基づきまとめて評価するなど、効果的で効率的な評価となるようにする。

各学期、年間、指導要録における特別活動の評価欄は、各学校で児童による自己評価や相互評価、教師による評価などを蓄積し、総合的に判断し、各学校が自ら設定した観点をもとに作成された評価規準を満たしているものを「十分満足できる活動の状況」と判断し、○印を記入する。「十分満足できる活動の状況」については、各学校で「児童のどのような姿」を指すのかを検討し、共通理解を図っておく必要がある。

なお、特別活動における「十分満足できる活動の状況」の評価に当たっては、特別活動の特質を踏まえ、児童のよさや可能性を積極的に評価することが大切である。

2学期制の学校では、評価の期間が長くなるので、前期・後期それぞれ中間での評価を行うなどして、児童一人一人のよい点や進歩の状況が積極的に評価されるように工夫する。

評価補助簿の例

5年0組		学級活動(3)												総括	メモ				
		5年生になって				はじめての委員会				もうすぐ6年生									
5年0組		知	技	思	判	表	態	知	技	思	判	表	態	知	技	思	判	表	態
5年0組		学級活動(2)												総括	メモ				
		言葉の使い方				すすんであいさつ				風邪・インフルエンザの予防									
5年0組		知	技	思	判	表	態	知	技	思	判	表	態	知	技	思	判	表	態
5年0組		学級活動(1)												総括	メモ				
		よろしくね会				係を決めよう				がんばったね会									
5年0組		知	技	思	判	表	態	知	技	思	判	表	態	知	技	思	判	表	態
A																			
B																			
C		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

学級活動(1)、(2)、(3)で使用した補助簿をもとに、学級活動全体を総括して評価する。

5年0組		委員会活動												総括	メモ				
		4月				5月				3月									
5年0組		知	技	思	判	表	態	知	技	思	判	表	態	知	技	思	判	表	態
A																			
B																			
C		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

5年0組		学級活動(1)	学級活動(2)	学級活動(3)	総括	メモ
A				○		学習と運動の両立に向けて粘り強く実践していた。
B		○	○		○	家庭学習にかかわる具体的な目標を決めていた。
C		○	○	○	○	新聞紙として、友達と協力してクラスの出来事をまとめた。

5年0組		代表委員会	委員会	児童会集会議	総括	メモ
A				○		あいさつ運動では積極的に活動していた。
B		○	○		○	代表委員会では低学年も楽しめるアイデアを発表していた。
C		○	○	○	○	保健委員会で風邪予防対策に積極的に取り組んでいた。

指導要録「特別活動の記録」

特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者ではなく、各学校が評価の観点を決める。特別活動の目標や学校として重点化した内容を踏まえ、具体的に観点を示す。

特別活動の記録						
内容	観点	学年				
児童会活動	・よりよい生活を築くための知識・技能 ・集団や社会の形成者としての思考・判断・表現 ・主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度			○	○	○
クラブ活動	※変更になった観点を記述できるようにスペースを空けておく。	△	△	△	○	○
学校行事		○	○			

「十分満足できる活動の状況」にあると判断される場合に、○印を記入する。

○印を付けた具体的な活動の状況等について、総合所見の欄に「特別活動における事実及び所見」として端的に記述することで、評価の根拠を記録に残すことができる。

指導要録「総合所見及び指導上参考となる諸事項」への記入例

総合所見及び指導上参考となる諸事項	
第5学年	<p>話し合い活動では、司会として話し合いがそれたときに提案理由やめあてを確認するよう、みんなに投げかけていた。</p>

「事実」の記入については、各活動、学校行事における所属する係名や委員会名、クラブ名、分担した役割等を記入するが、事実だけでなくそれらの活動状況などについて集約して記入するとともに、以後の指導に特に必要とされる事項についても記入する。

○印が付かない場合であっても、児童のよい点や進歩の状況などについて積極的に取り上げ、その具体的な事項について記入する。

特別活動